

フィールド名 松崎町商店街フィールド

フィールドテーマ なまこ壁が残る松崎町商店の賑わい創出

メンバー

(地域共生) 3年古田采音 (地域経営) 3年松岡大輝
(アート&マネジメント) 3年梅田夏希
指導教員：牛場智先生

フィールドワーク実施協力者

松崎町企画観光課 せんと 深澤様
松崎町総務課 松崎2030プロジェクト
松崎町商店街
静岡県立松崎高等学校 ...

地域概要

松崎町は人口約5,500人の、西伊豆エリアに位置する町で、静岡大学からはバスで約2時間半で行くことができます。「花とロマンの里」というキャッチフレーズで知られると共に「日本で最も美しい村連合」の加盟地域であり、歴史と自然が調和、美しい景観の保護や発信の活動が盛んに行われています。

春になると、川沿いに咲き乱れる桜や田んぼを活用した花畑を見渡すことができ、温かな気持ちになります。石部の棚田は、平成12年に耕作放棄地を再生した事例で、現在多様な情緒ある風景を見ることができます。私たちは、伝統的工法で保存されるなまこ壁が立ち並ぶ商店街を中心に活動しています。

松崎町では桜葉の生産量が日本一で、全国シェアの約7割を占めます。町内では桜葉餅などに使用され、親しまれています。また、豊富な海の幸、川のり、栄久ポンカンなど季節を問わず食を堪能することができます。

「2030松崎プロジェクト」では、ツーリズムや農業等のグループが、各面の松崎町の課題からゴールを設定し、官民一体となった活動が行われています。2024年度は、2030松崎プロジェクトと密に連携しながら、1・2ヶ月に1回の頻度でフィールドワークを実施しました。

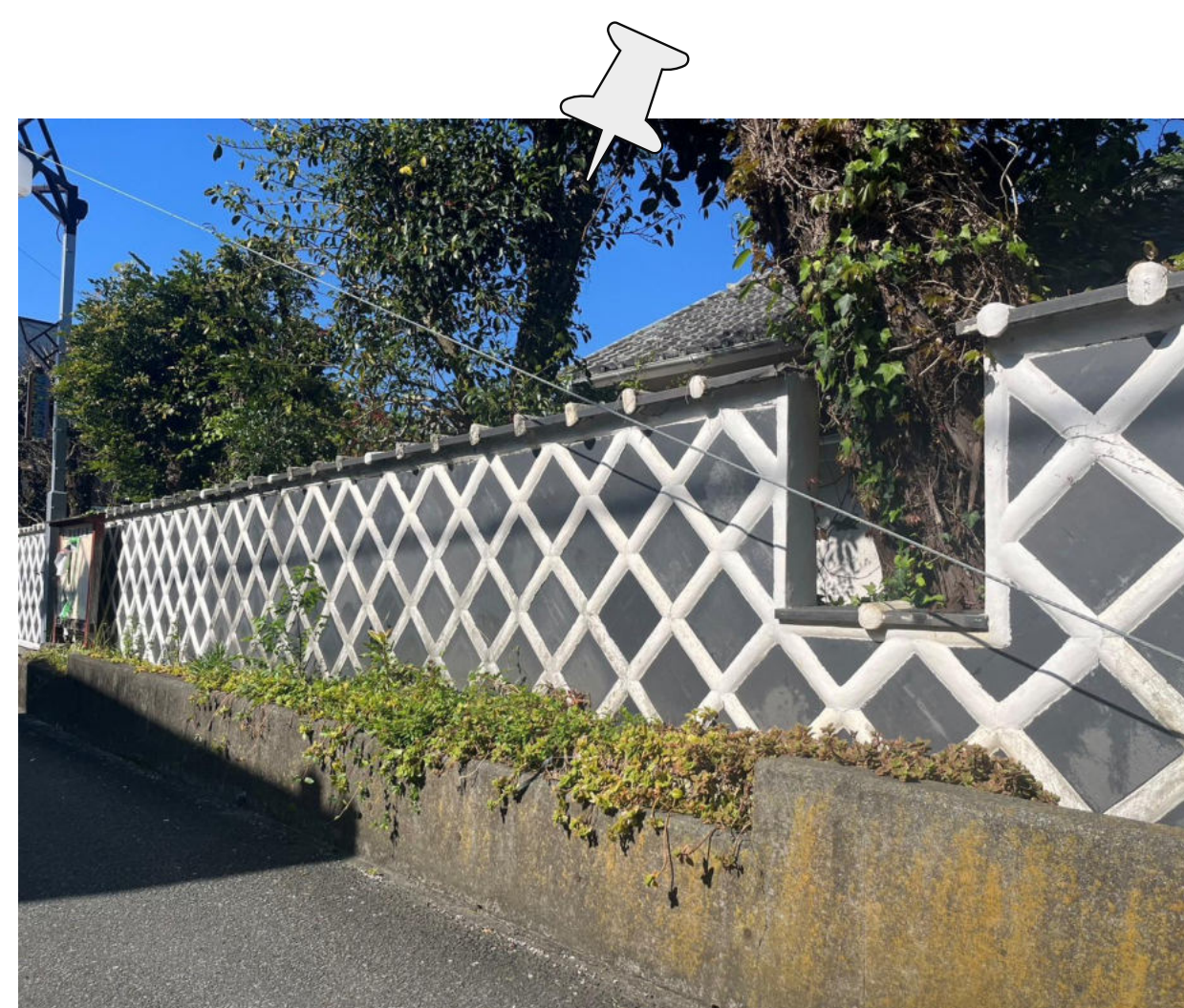
これまでの活動

□ 2022年度までの活動



イベントへの参加

棚田のライトアップイベントや棚田フェス、秋まつりなどに参加し、松崎町内外の方々との交流を深め、松崎の伝統を体験しました。



▲なまこ壁



▲桜葉餅

中高生との交流

松崎中学校、松崎高校の生徒とワークショップを行い、松崎町の魅力や課題について話し合う機会を設けました。また、松崎高校の文化祭に参加するなど、松崎町の若者とのつながりも大事にしています。



▲パンフレット表紙



魅力発信

商店街の方々との交流を通してインタビューを行い、店主さんたちの素敵な人柄に焦点を当てた商店街パンフレット「てんしゅさんぽ」を作成しました。

□ 2023年度の活動

高校生の放課後居場所づくり

「松崎町に持続するものを残したい」という考えから、松崎高校の有志生徒と協働で元お惣菜店「せんと」をコミュニティスペースに改修する活動を始めました。「せんと」周辺地域の不用品回収を行い、机や椅子の整備を行いました。



▲備品整備後のせんとの様子

2024年度の活動について

本年度は「せんと」に「PRESENT」という名前をつけ、コミュニティスペースとしていく活動を行いました。

□ 7月 コミュニティカフェ

「PRESENT」プレオープンイベントとしてコミュニティカフェを実施した。



〈目的〉

- ・「PRESENT」を地域の皆さんに知ってもらうこと。

〈結果〉

- ・2030プロジェクトの先生方にも、スイカ割りやピアノ演奏などの内容をご用意頂き、地域の方がイベントに参加するきっかけになった。
- ・回覧板を見て来て頂いた移住者の方、お散歩中の親子など様々な方にご参加頂いた。
- ・お子さんと高校生・大学生がお絵かきやカードゲームで遊び、多世代交流の場となった。



◀サザエのお刺身

スイカ割りの様子▶



これまで取り組んできたフィールドワークを振り返って

●私たちのフィールドワークの活動が終わった後に、居場所をどう持続していくことが出来るのか、松崎町に伺える回数や予算に制約もあり、人数も少ない中で、正直不安の多い1年でした。イベントの準備も、多方面への連絡やポスターの製作など、とても大変でした。しかし、「せんと」の深澤様がかけてくれた「まずは楽しんで何でもやってみたら良いんだよ、失敗しても良いんだよ」という言葉に、常に支えられていました。協働活動させて頂いた松崎2030プロジェクトの先生方にも、松崎町に行かなければ出来ない準備を行って頂いたり、休日にも関わらずイベントに参加して頂いたり、たくさんのご支援を頂きました。こうした皆様や、地域の皆様の暖かさを糧にして、各活動を達成することが出来ましたし、外部から地域に参入するとはどういうことなのか、あるべき姿勢を学びました。フィールドワークが終わった後も、「PRESENT」の責任は、私たちが持ち続ける必要があると考えています。定期的にご連絡をし続けると共に、参加出来る機会にはPRESENTでの活動に関わりたいと考えています。松崎町の穏やかで優しい空気が大好きです。本当にありがとうございました！

古田采音●

●私が松崎町を知ったのは、2022年度の先輩方が作成した「てんしゅさんぽ」でした。そこから初めて松崎商店街を訪れ、人々のつながりや営みの一端に触れることができました。そして2023年度からは、高校生が気軽に立ち寄れる居場所として「せんと」の設置を目指して活動を始めました。その過程で、高校生や地域住民の声を聞き、松崎町にいない時の街の様子や課題についても学ぶことができました。残念ながら、私たちは松崎町FW最後の代となってしまいましたが、この1年間、私たちは居場所を松崎町に残すことを目指し、地域イベントへの参加を通じて、より多くの人々と交流を深めることができました。目標達成について語ることはできませんが、居場所が地域に息づく存在であり続けることを願っています。最後に、松崎町の温かい方々に支えられながら活動できたことを大変嬉しく、誇りに思っています。大学としての関わりは終わりますが、また必ず遊びに、そして釣りに訪れます。

松岡大輝●

●以前は先輩方が、松崎高校とのつながり、イベントなどを進めてくれていて、私たちは今年、先輩たちが繋げてくれた松崎高校とのつながりを数々の活動を通してより深く、興味深いものにできたと思っています。松崎高校との活動を進めていく上で、思いがけない地域の人との出会いや、面白い話が聞けたり、実際に近くでイベントを進め、対話をしていて、この松崎町の人たちの温かさ、地域のつながりの深さ、生活や、彼らの地元への深い愛情など、がヒシヒシと伝わってきました。実際に松崎町に足を運んで対話をしないと出会えないその人の暖かさ、土地への愛を感じることができたことは貴重で素晴らしい体験です。こちらの立場としても、人との関わりを通じて、静岡大学での学びや、大学生として教えられること、コミュニケーションで私たちにしかできない温かい関わりを提供できたと自負しています。今年でこの活動が終わってしまうのはとても名残惜しいですが、活動の中で築いてきた松崎町という街とそこに住んでいる人たち、そして私たちの思いは決してなくならないと信じています。総じて自分にとって大きく成長できた一年の活動でした。

梅田夏希●

□ 10月・11月 西豆学

松崎高校の探求活動である「西豆学」に、2030松崎プロジェクトの「カフェ班」と協働で関わらせて頂いた。

“まちのお気に入りマップづくり”を行い、観光地にこだわらない、地域に暮らす高校生ならではの視点でのマップを作成した。



〈目的〉

- ・松崎町で行うコミュニティづくりの一例として高校生にご紹介すること。
- ・「PRESENT」を利用して、誰でも参加出来るイベントを開催すること。

〈結果〉

- ・松崎・西伊豆・南伊豆の3グループに分かれ、計3回の授業でマップを完成させた。チームごと非常に個性のあるマップが出来上がった。
- ・数名の地域住民の方にもご参加頂いた。
- ・今後探求テーマを決める高校生にとって、地域を見つめ直すきっかけになったと考える。



◀南伊豆グループのマップ
(野生動物の出現数は付箋に書ききれず、マップ上に大きく書いているのが特徴的)